

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成20年10月27日

施設名	高知県立牧野植物園	所管課名	文化環境部環境共生課
-----	-----------	------	------------

1 施設の概要

指定管理者名	財団法人高知県立牧野記念財団	指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
施設所在地	高知市五台山4200-6		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・植物園の設置の目的※を達成するための事業の企画及び運営に関する業務 ・植物園の利用の許可、撮影の許可、許可の取消し等に関する業務 ・植物園の利用料金の收受、減免、還付その他の利用料金の徴収に関する業務 ・植物園の施設、設備等の維持管理に関する業務 <p>※『牧野富太郎博士の偉業を顕彰し、植物研究を通じて、教育文化の向上及び産業振興に寄与するとともに、土佐寒蘭の保護及び知識の普及を図り、県民に対し、憩いの場を提供するため』（高知県立牧野植物園の設置及び管理に関する条例第1条）</p>		
施設内容	<p>○ 面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p>〈植物園面積〉 約17.8ha（うち5.6haを利用に供用）、駐車場（普通車100台、バス10台） 〈主要施設〉 牧野富太郎記念館（本館、展示館）、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、学習館、長江圃場、レストラン、ショップ、カフェなど 〈開園時間〉 午前9時～午後5時 〈休園日〉 12月27日～1月1日 〈主な料金〉 入園料／一般500円（高校生以下無料）、団体400円（20名以上）、年間入園券2,000円、高知県長寿手帳保持者等は無料 施設利用料（1時間当たり）／映像ホール1,400～1,800円、アトリエ実習室500～600円など 撮影料／業として行う写真の撮影：撮影者1人当たり日額1,800円、業として行う映画の撮影：撮影機1台当たり1時間3,600円</p>		
職員体制	常勤職員： 21 人 非常勤職員： 38 人 合計： 59 人 （平成20年4月1日現在）		

2 収支の状況

単位：千円

		18年度(決算)	19年度(決算)	20年度(予算)
収入	県支出金	253,836	255,348	257,059
	使用料・手数料	37,809	36,287	39,649
	その他			
	収入計 (a)	291,645	291,635	296,708
支出	活用事業費	14,901	15,414	19,975
	管理運営費	111,978	109,770	116,211
	人件費	145,315	156,345	155,404
	その他			
	支出計 (b)	272,194	281,529	291,590

3 利用状況

	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	128,331	121,215	175,000
②利用者意見等の反映	<p>○利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般の来園者については、窓口や各展示会場にアンケートボックスやノートを置いてあるほか、講演会やイベント・講習会の際にもアンケートを行い、利用者ニーズの把握に努めている。 頂いたご意見やアンケート結果については、広報担当者が集計し、全職員にメール等で周知、改善しながら要望に応じている。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 開園50周年記念事業の準備のため、園内の各所で工事が行われたが、危険防止のための案内板の設置、警備員の配置等、利用者の安全性の確保について細心の注意を払って対応している。 要望の多かった植物の販売開始等、利用者の多様なニーズへの対応に努めている。 特別展・企画展に関しては、過去のアンケート調査を基にして意向反映を図り、四季折々の“植物文化”の展示に努めている。 		
③その他特記事項	<p>開園50周年記念事業の準備のため、9月から南園・温室等一部施設を利用制限を行ったことなどにより、入園者数は目標に至らなかったが、上半期だけで見ると、直近5年間で最も多い入園者数であったことに加え、施設利用及び写真撮影件数は512件と、前年度(471件)を上回る利用がなされており、植物園の利用促進について高い成果を上げている。</p>		

4 平成19年度業務評価

項目	状況説明
①適正な管理運営の確保	法令順守、利用料金の徴収に関する業務、施設の利用及び撮影の許可に関する業務、施設管理、危機管理体制の確立、情報管理などについて、公の施設として適正な管理運営が行われていると認められる。
②広報・展示、普及教育業務等	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌(紙)等の作成・配布のほか、報道機関・情報雑誌等を活用し、植物園の情報提供、広報、広告を効果的に行っている。 牧野博士や植物に関わる特別展・企画展、各種イベントは、いずれも魅力的な内容となっているほか、展示方法にも工夫が見られ、来園者の好評を得ている。 植物教室や体験教室をはじめ、植物園を児童生徒の総合学習の場として活用するなど、一般の方から子どもまで幅広い年齢層に対して充実した普及教育活動を行っている。 これらの活動により入園者数の増加に結び付けることに成功しており、高く評価できる。
③植物研究、植物管理、高知県植物誌の編纂	<ul style="list-style-type: none"> 園内での研究をはじめ、海外での調査や、大学・県の研究機関・企業等との共同研究等に加え、地域振興につながる研究にも精力的に取り組んでおり、研究型植物園としての機能強化が進んでいる。 新たな植生園の整備などの園地改良のほか、長江圃場における植物の栽培・保存増殖作業などに加え、採集した標本資料の適切な保管・管理が行われており、植物管理についても熱心な取り組みが続けられている。 高知県植物誌の編纂業務については、執筆作業が順調に進んでおり、平成20年度の刊行へ期待ができる。
④収支の状況	<ul style="list-style-type: none"> 利用料金収入は収入目標に若干至らなかったが安定した収入を得ている。研究部門における外部資金の導入など収入増加に向けた取り組みや経費節減への努力を引き続き行っており、成果が上がっている。 今年度に整備した南園の管理等、管理費用の増加への対応が課題となると思われる。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 植物研究、植物管理、広報・展示、普及教育、施設管理など、多岐にわたる植物園業務の各分野において、いずれも精力的な取り組みを行っており、高く評価できる。 これらの成果は、職員全員の努力によるものであり、限られた人員の中での経営努力については、なお高い評価に値する。 職員の専門性、努力、成果などが反映される給与体制の導入など、成果を維持し続けていく取り組みを行ったことは評価できるが、開園50周年記念事業の準備もあったことから、職員の負担軽減につながりにくかったと思われる。今後、改革した組織体制が効果的に運用できているかについての検討や、職員全体のより緊密な連携、ボランティアの活用・連携、といった取り組みを続けていく必要があると思われる。

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの